恋しさなどの感情のことで、私たちの活動は、悩みを抱えた人からの相談やサポート、支援者の養成、啓発や広報に特に力を入れています。

3年前からは、山口県立大学社会福祉学部のソーシャルワーク演習へ協力させていただき、学生と一緒に「グリーフ」について考え、学んでいます。

悲しみに寄り添う

私たちの想い、ミッションを「悲しみに寄り添い、共に生きていくことのできる地域づくり」としています。

大人も子どもも、自分が辛い時、苦しい時はSOSを出していいということを伝え、人に助けてもらうことは悪いことではないことを知っていただきたいです。当事者の気持ちに寄り添う意識が地域に根づき、私たちのサポートが必要とされなくなることが一番嬉しいです。

また、事件・事故などによって、命を奪われた犠牲者が主役のアート展「生命（いのち）のメッセージ展」を開催しています。犠牲者一人ひとりの等身大の人型パネルに本人の写真や家族の言葉を貼り、足元には「生きた証」である靴を置いて、命の大切さを考えていただく機会を作っています。

生命（いのち）のメッセージ展

支援の輪をつなぐ

面談による相談では、ご自宅に行くことが多いので、誰もがいつでも集える場所を、2年以内には防府市に設けたいと思っています。

そして、一緒に活動しているメンバーが、それぞれ住んでいる地域で活動ができ、広がればいいなと思っています。

一人ひとりが悲しみに寄り添う姿勢を持つことで、自然に寄り添える関係となり、大人も子どもも一人にならない地域づくり、まちづくりに繋げていきたいです。

（取材：原田）

case 2

地域とともに
心のバリアフリーを
目指して

はぁとふりぃ下関
代表 **山本 千栄子（やまもと ちえこ）さん**

“ハードはハートで変えられる　人が優しいまちづくり”を掲げ、障がい者のお困りごとに寄り添います。

事故で車いす生活に

15年前、私は交通事故に遭い、車いす生活を送るようになりました。公的な施設は、車いすでも使いやすいように配慮されていますが、その施設までの道は整備されてなく、移動するのが困難なことが分かりました。

私が健常者の時には見えなかったことが、車いすを使うようになり、改善すべきことが多くあることに気づきました。行政に相談しても問題が解決できないことが多く、一ヶ所で障がい者の困りごと全般に応えてくれる拠点を探しましたが見つからず、「それだったら自分で作ろう！」と思い、仲間とともに立ち上げました。

気持ちに寄り添って

車いすで街へ出た時、バリアフリーではない場所で立ち往生し、困ったことがありました。

多くの人は見て見ぬふりで通りすぎましたが、「私にできることはありませんか？」と外国の方が声をかけてくれ助かりました。その時、私も、健常者の時には接し方が分からず、声がかけられなかったこと、自分から助けてと言わないと分からないことに気づきました。そこで、車いす使用者を気軽に支援してもらう活動や、車いす使用者も気軽に外出できる活動に取り組むことにしました。

活動では、車いす体験研修、車いすマイスター（車いす介助が上手な人）養成講座、はぁとふりぃマップ（障がい者に必要な情報を掲載した便利マップ）作成などを行っています。

これまで歩んで来た道を振り返ると、いろいろな人たちの笑顔がそこにあり、困難な問題が発生しても、不思議とその方面に得意な人が現れ、解決してくれます。これからも、いろいろな人の協力を得ながら、頑張っていこうと思います。